



巻頭言

無自覚を耕すこと



琉球大学附属図書館長 高良 倉吉

沖縄県の北端の島はどこですか？、と尋ねると、多くの人が「それは伊平屋島でしょう」と答えるにちがいない。たしかに、伊平屋島に立つと水平線に与論島が見え、この二つの島のあいだに沖縄県と鹿児島県の県境が横たわっているの、そう答えるのも無理はない。

しかし、正解は硫黄島である。与論島の北の沖永良部島、さらにその北に位置する徳之島の西方海上に浮かぶ無人島である。沖縄県の久米島町に属し、火山活動でできた荒々しい形状の小島である。この島が沖縄県の一部であるために、鹿児島県との県境は複雑な線を描いている。

1609年春、琉球王国は薩摩軍に敗れ、その代償として与論島以北の奄美の島々を薩摩に割譲した。だが、両者の協議により、硫黄島のみは琉球領として残された。琉球と中国の外交や貿易にとって不可欠である品、すなわち硫黄を産する島だったからである。当然のことであるが、硫黄島には住民が住んでおり、硫黄の採取に励んでいた。この島から住民が去り（那覇市に移住）、無人島となったのは戦後、1959年のことなのである。絶海の孤島において、その島の住民たちは硫黄を採取する生業を中心としながら、段々畑を耕し、長い生活の歴史を営んできたのであった。

鹿野政直氏（元早稲田大学教授）は、『「鳥島」は入っているか』（1988年、岩波書店）と題する本の中で、奄美に居住して優れた作家活動を行っていた島尾敏雄氏の指摘に学びながら、「わたしたちの歴史学には、はたして「鳥島」は入っているか」、と問いかけている。小さいもの、はじっこにあるものを、無自覚に切り捨ててしまっている、そういう己（おのれ）の意識状況を絶えず耕し続けることの必要性を強調したのである。私にとって、この指摘は、重い言葉であり続けている。

【目次】

1 …… 巻頭言

4 …… 詩朗読会「Voice -詩の響きを求めて-」を開催しました

2 …… 「第5回びぶりお文学賞」を発表

6～7 …… 図書館トピックス

3 …… 貴重書展

8 …… お知らせ

「第5回びぶりお文学賞」を発表

「第5回琉球大学びぶりお文学賞」は、今年度詩部門を創設し、平成23年10月31日に応募が締め切られました。全学の学生から小説部門では28編、詩部門では48編の応募がありました。小説部門は昨年の倍の応募数となり、詩部門もレベルの高い応募作品が多数集まりました。

両部門とも慎重な選考を行った結果、受賞作、佳作は下記の作品に決定しました。



【小説部門】

●受賞作

「魔女の天ぷら」

照屋たこま（法文学部国際言語文化学科4年次）

●佳作

「子(に)ぬ方星(ふぁぶし)見つけた」

上間美香（法文学部国際言語文化学科3年次）

「偽者ヒーロー」

知念紘己（法文学部総合社会システム学科1年次）

【詩部門】

●受賞作

「道化の鏡」

小山響平（理学部物質地球科学科4年次）

●佳作

「洗骨」

添田晴日（理学部理工学研究科修士1年次）

「自愛談義」

東恩納るり（法文学部国際言語文化学科3年次）

「実態のない楽園」

兵頭茂（理学部物質地球科学科3年次）

授賞式は、平成23年12月21日に附属図書館会議室で行われ、岩政学長から受賞者に賞状と副賞が授与されました。授賞式の後、受賞者と大城貞俊選考委員、図書館職員を交えた懇談会が行われ、受賞の抱負や書く事への思いなど語り合いました。作品は、作品集として冊子体にして発行され、また図書館ホームページでも公開予定です。

受賞の言葉

小説部門受賞 『魔女の天ぷら』

照屋 たこま

今、びぶりお文学賞の副賞で頂いたパソコンに向かいながら、この文章を綴っています。受賞のお知らせを頂いた後、全く実感を持っていないのですが、こうしてこのパソコンに向かっていると、自分の頬が緩んでいるのを感じます。本当に、現金なやつです。

『魔女の天ぷら』は、私自身が解決できずにいた祖母との関係をモデルに書いたものです。いざ完成してみると、私が長年抱えていた問題をたった一日で乗り越えてしまう主人公に、何だか嫉妬してしまいました。その一方で、「こんな解決もありじゃないか」と作品に教えられたような気がしました。作品を書くきっかけを与えて下さったすべての方々から感謝しています。

また、受賞をきっかけに自分の文章の未熟さを痛感しました。これからも書き続けて、いつか「私の原点は琉球大学のびぶりお文学賞だ」と、胸を張って言えるように精進したいと思いますので、応援よろしくをお願いします。

受賞の言葉

詩部門受賞 『道化の鏡』

小山 響平

戦中戦後の沖縄問題では、内地との温度差が常に存在しています。

温度差は沖縄と内地の地理的な距離によって生まれると私は考えていましたし、東日本大震災の報道に同様の温度差を見つけて、その考えは正しいように思えました。ところが、私の家にほど近い泡瀬干潟の埋め立て工事についての報道にも同様の温度差を感じ、実は距離は関係なく、元からの無関心が報道によって可視化されたのだと考えを変えました。

そして、問題への無関心が報道によって表面化される一方、報道が無関心を助長することもあるのでは？ と、テレビを鏡に見立て、応募作『道化の鏡』となりました。

私は書くことの難しさと楽しさを、びぶりお文学賞をきっかけに知ることになりました。

来年からのびぶりお文学賞のさらなる盛り上がりをお祈り申し上げます。

平成23年度貴重書展「文献資料に見る八重山・琉球」を開催

附属図書館は、毎年、公共図書館と連携して資料の公開や地域貢献・地域連携の一環として貴重書展を行っています。平成23年度は、初めて海を越え、石垣市立図書館にて10月22日から30日まで開催しました。

今回は「文献資料に見る八重山・琉球」として、本学所蔵資料より、八重山の頭職を勤めた宮良家に代々伝えられてきた資料「宮良殿内文庫」や、石垣市出身の中国哲学者である大濱皓関係資料を中心に約30点が展示されました。宮良殿内文庫は、1962(昭和37)年に、当時の宮良家当主宮良当智氏によって本学に寄贈されて以来、約50年ぶりの里帰りともあって、会期中、約720名の来場者があり、その中には期間中何度も訪れる郷土史研究家の姿も見られました。



また、23日には、石垣市立図書館視聴覚室で沖縄県立図書館との共催で特別講演会「八重山の歴史をさぐる」を開催しました。当講演会では、教育学部の豊見山和行教授が「1771年の大津波とその後の八重山社会」、同じく里井洋一教授が「蔵元絵師画稿集・異人の図を読み解くー漂着マニラ人かー」のテーマで八重山の歴史についての講演を行いました。会場には百名を超える来場者で埋め尽くされ、予定時間を大幅に超えて質問が続き、当講演は盛況のうちに終了しました。

また、石垣市で開催された展示会を見ることができなかった本学の学生・教職員対象として、平成24年1月23日(月)～27日(金)には附属図書館1F情報ラウンジにてリバイバル展、あわせて、多目的ホールにおいて、パネル展「首里キャンパス時代の琉球大学」も開催しました。期間中、図書館職員および館長によるギャラリートークも行いました。

Walter Abelman (ウォルター・エイベルマン) 撮影写真の公開について

附属図書館では、この度寄贈を受けた故Walter Abelman氏の撮影写真を公開しました。エイベルマン氏は1921年にドイツに生まれ、1946年に陸軍医として沖縄に赴任しました。勤務の傍ら休日には同僚のスタンレー・スタインバーグ博士と共に沖縄県内をドライブし、写真を撮影したということです。写真には、戦後の沖縄の風景や、当時首里にあった「ニシムイ美術村」で活動していた美術家たちとの交流が映し出されています。



※写真資料は、デジタルギャラリー (<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/library/okishi/>) より御覧いただけます。

詩朗読会「Voice -詩の響きを求めて-」を開催しました

平成24年1月18日附属図書館多目的ホールにて「Voice -詩の響きを求めて-」を開催いたしました。

朗読者として登壇したのは、学内からはびぶりお文学賞詩部門を受賞した小山響平さん、佳作の兵頭茂さんの二人。学外からは第一回びぶりお文学賞受賞者の山原みどりさん、西原裕美さん、宮城隆尋さん、トーマ・ヒロコさんや宮城信太朗さん、また、山之口獏賞受賞者であり、びぶりお文学賞詩部門選考委員でもある松原敏夫さんも自作の詩を朗読しました。

来場者は学外者含めて30人ほどにのぼり、皆それぞれ熱心に聞き入っていました。



詩朗読会「Voice -詩の響きを求めて-」以外のびぶりお文学賞関連イベント

「小説の書き方講座 -びぶりお文学賞に応募してみよう!-」

日時 平成23年7月13日(水) 16:10~18:00

会場 附属図書館1階多目的ホール

「詩を書いてみよう! -詩の寺子屋塾-」

日時 平成23年10月12日(水) 13:30~15:00

会場 附属図書館1階グループ学習室A



選書ツアーに行ってきました!

附属図書館学生選書グループによる初めての学生選書ツアーを10月3日と1月19日に行いました。

大学のマイクロバスにツアー参加者を乗せて、那覇市在のジュンク堂書店へ出向きました。第1回目の10月3日は学生参加者9名で、それぞれの専門分野の選書、おすすめ本の選書と118種224冊の本の選書があり、副本調査を行った後納品となりました。

第2回目は1月19日に行われ、選書グループ員7名、選書グループ員以外の学生の参加1名で計8名の学生が参加した。第2回目は選書時にハンドスキャナーを使用したこともあってか、選書本は大幅に増加し約900冊となり、副本チェック等を終了し、発注中となっています。選書本は納品後企画コーナーで4月上旬まで展示される予定となっております。学生の視点で選書した本が図書館の利用者に活用され、充実を図れることを願っています。



図書館のサービスが新しくなります

平成24年4月から図書館のシステム入れ替えに伴い、蔵書検索やMy Libraryのサービスが新しくなります。

- ◆シンプルで分かりやすい画面になります。
- ◆蔵書検索で一部の図書に書影や目次が掲載されます。
- ◆電子ジャーナルや電子ブックも、蔵書検索からまとめて検索できます。
- ◆My Libraryから図書貸し出し期間の延長が出来ます。
- ◆グループ学習室やゼミ室が、ホームページから予約できるようになります。
- ◆資料到着のお知らせなど、図書館からのお知らせが分かりやすくなります。

※4月はシステム入替作業に伴い、サービスも一部不安定になります。また、サービス開始時期が遅れる可能性があります。ご了承下さい。

「Library Lovers' キャンペーン」開催しました

Library Lovers' キャンペーンを10月12日から11月15日に開催しました。キャンペーン期間中、葉っぱの形の応募用紙に本に対するコメントを書いて「読書の木」を成長させていくイベントや30年前の新聞の展示など、様々なイベントを行いました。キャンペーンの結果は下記の通りです。

【読書の木】

葉っぱ応募数：22枚

【ブックスキャナ体験会】

参加者：4名

【30年前の今日は!？】

新聞展示のみ

【図書館のアートを探してみよう!】

参加者：62名

全問回答者：23名

【迷子の本を探せ!】

発見数：10冊中4冊



キャンペーンHP：<http://libraryloverskyushu.blog.fc2.com/>





新たなグループ学習スペースを増設

琉球大学附属図書館は、本館1階の多目的ホールに新たにグループ学習を行うためのスペースを設置し、10月より利用を開始しました。

琉球大学では、学内の各所に学生のための学習スペースが設けられているが、夜10時まで開館している図書館のグループ学習室の利用率は高く、予約で満室になることもありました。そのため、図書館の多目的ホールを改修し、新たに予約のいらぬグループ学習のための施設を増設しました。



撮影：入江徹



新しい学習スペースの設置にあたっては、本学工学部環境建設工学科の入江准教授に家具類を含めた空間デザインを依頼し、図書館の中で最も居心地の良い空間を目指して改修をすすめた。白と赤を基調とした空間はすっきりとし、ホワイトボードや貸出用のノートパソコンやプロジェクタを活用した学習、人数にあわせて机や椅子を移動させることができ、ゼミ等でも活用が見込まれます。

後期の開始にあわせて提供を始めたグループ学習スペースは、図書館内で唯一靴を脱いで利用するスペースとなっており、学生が寛いだ雰囲気ですべて学習する姿が見受けられています。

複数の機能の重なり

設計：入江 徹（琉球大学工学部環境建設工学科建築コース准教授）

図書館は、読書や勉強をするための静かな環境を必要とします。しかし、この空間は、琉球大学附属図書館で唯一談笑を促す環境を目指しています。そのため、可能な限り開放的で明るい空間にしました。そして、この空間は、談笑、読書、勉強、展示、レクチャー、シンポジウムなど複数の行為を可能とします。今後、この空間で様々な開放的な活動が行われることを希望しています。是非ののしみながらご利用下さい。

公共図書館の本が借りられます(無料)

沖縄県立図書館の巡回車は県内公共図書館（市町村立図書館等）を中心に巡回して図書の貸出サービスをおこなっていますが、平成23年12月より、当館へも試行巡回が開始され、平成24年4月1日より、正式に巡回コースに加わるようになりました。これにより県内の公共図書館の図書を借りることができるようになりました。当館では小説や児童書など比較的所蔵の少ない分野もありますので、この機会にぜひご利用ください。

*申し込みは図書館ホームページの「使う・知る」→「MyLibrary」からログインしてください。
(図書館HP <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>)



通常のILL（図書館間相互貸借）の申し込みと同じになりますが、県内公共図書館に所蔵していることがわかるよう、申し込みフォームのコメント欄に「県内〇〇市立図書館所蔵」とご記入ください。

*検索エンジンは、同じく図書館ホームページの「調べる・探す」→「蔵書検索（沖縄県内）」をご利用下さい。
県内公共図書館・大学図書館等の所蔵検索が一括で行えます。
*巡回車は毎月第2・4週水曜日（Bコース）に当館に巡回します。巡回のタイミングにより図書の到着に時間がかかることがあります。

ハワイ大学図書館の所蔵資料を無料で取り寄せることができます

平成23年11月23日より、琉球大学附属図書館とハワイ大学マノア校図書館は図書の貸借、および文献複写の料金を今後5年間、無料とする協定を結びました。国内に所蔵する機関がなくても、ハワイ大学に所蔵があれば無料で取り寄せることができます。

ご活用ください。

*申し込みは図書館ホームページの「使う・知る」→「MyLibrary」からログインしてください。

(図書館HP <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>)

ILL(図書館間相互貸借)の申し込みと同じになりますが、申し込みフォームのコメント欄に「ハワイ大学所蔵」とご記入ください。事前にハワイ大学所蔵を確認する必要があります。

レポート相談窓口を設置しました！

平成24年1月・2月に附属図書館カウンターにレポート相談窓口を設置しました。教育学や英語学、琉球史を専門とする大学院生が、みなさんのレポートに関わるさまざまな相談に対応しました。

1月にはレポート・論文の書き方セミナーも開催しました。3時間と長めの時間でしたが、レポート・論文の書き方について、グループワークを行いながら説明しました。

平成24年度にも、みなさんのレポートに関する問題をサポートしていく予定です。

ご要望などございましたら、literacy@lib.u-ryukyu.ac.jpまで是非お寄せください。

早朝開館が始まります！

4月2日より開館時間が30分早くなります

平成24年4月2日より、附属図書館及び医学部分館では早朝開館(8時開館)を開始します。これまでは授業の開始時間と同じ朝8時30分の開館でしたが、授業の始まる前に図書館を利用したいというご要望が多く寄せられたため、授業開始30分前の8時に開館することとなりました。短い時間ではありますが授業前の調査や資料の準備、朝の読書等にもご利用ください。

図書館見学等

訪問日

見学者

平成23年9月～24年3月

9月7日	琉球大学教育学部附属小学校45名図書館見学
9月7日	中城村立中城中学校165名図書館見学
9月21日	沖縄県立那覇商業高等学校33名図書館見学
11月9日	沖縄県立南風原高等学校38名図書館見学
11月12日	沖縄県立首里高等学校102名図書館見学
11月17日	東京学芸大学附属国際中等教育学校55名図書館見学
2月20日	沖縄県立中部農林高等学校41名図書館見学

出版・報道

放送・発行日

番組・書名・展示会名

提供資料

2011年11月

『南城市史総合版(通史)』改訂版

明治期琉球写真帳より「久米村孔子祭の様子」2点

